

## 県連・商工会等による支援の動き 5/1~5/7

### 5/7 千葉県・沼南商工会が被災地支援へ市民の会設立

柏市と市内の経済団体、ライオンズクラブなど25団体が協力して、東日本大震災の被災地を支援する市民団体が設立された。7月まで被災地の宮城県気仙沼市に交代でボランティアを派遣するほか、被災者、避難者への金銭や物資を提供する。

会の名称は「頑張ろうニッポン！柏プロジェクト『東日本大震災復興を支援する柏市民の会』」。沼南商工会、柏商工会議所、柏市商店会連合会、柏市医師会、柏市建設業会などが参加している。

---

### 5/7 北海道・仁木町商工会女性部が復興支援の「チャリティー展」を開催

東日本大震災復興支援の油絵と布絵の「チャリティー2人展」が、町内の国道5号沿いの旧レストラン「カレーびと」で開かれている。仁木町商工会女性部が町内在住の元全道展会友志津照男さん（79）と布絵作家の宮崎夏子さん（75）に協力を依頼。作品24点が並ぶ。宮崎さんの手作りの布製バッグなどを即売し、売り上げと会場内での募金を義援金に充てる。

---

### 5/7 山梨県・身延町商工会が、ポイントカードで復興支援

身延町商工会加盟店でつくる「身延町サービス店会」は、加盟店で利用できる「さくらカード」を通して、東日本大震災の復興支援を行っている。ポイントがたまったカード1枚を客が使う度に、50円を義援金として被災地に寄付する取り組みで、期間は31日まで。

同会には町内の小売店や飲食店など69店舗が加盟している。さくらカードは、買い物100円ごとに1ポイントが加算され、350ポイントで満点となる。満点となったカードは1枚500円分として使うことができる。客が満点のカードを1枚使うごとに50円を同会運営費から拠出し、義援金とする。

同会は「震災で自粛ムードとなっている中、身延町が元気になることで被災地に少しでも協力できれば」としている。

---

### 5/7 宮城・女川町商工会がプレハブ「仮設商店街」の説明会を開催

宮城県女川町で、津波で店や工場を流された事業者が、プレハブを無償で貸す中小企業基盤整備機構の制度を使って仮設施設を建て、再起を図る動きが広がっている。機構の

制度は公有地や地元自治体が借り上げた私有地に機構がプレハブの店や工場を建設し、自治体が地元事業者原則無償で貸し出す。

町商工会で5日に開かれた説明会では、多くの店主や水産加工業者らが制度に興味を示した。女川町商工会では「制度活用を検討する事業者はさらに増える」と見込んでいる。

---

#### 5/5 岩手県内商工会で雇用、賃金、労災保険等の相談会が開催

10日＝大槌町中央公民館（10～15時）▽11日＝山田町商工会、野田村役場村民ホール（いずれも10～15時）▽12日＝陸前高田商工会仮事務所（11～14時）

---

#### 5/4 秋田県ゆざわ小町商工会青年部が被災地の子供たちを支援

ゆざわ小町商工会青年部は3日～4日にかけて被災した相馬市の子ども達と湯沢市の子ども達との野球交流事業を開催した。また岩手・宮城・福島の被災地の小中学校と避難所で使用するノート・鉛筆・絵本・おもちゃを湯沢青年会議所を通じて提供した。

---

#### 5/4 宮城県・女川町商工会青年部が「おながわ復幸市」

町全体の8割が壊滅的な被害を受けた女川町で4日、「おながわ復幸市」（町復興連絡協議会主催）が開かれる。町商工会青年部（川村洋之部長）が中心となり、「出来ることから行うことで被災した町民に心意気を見せよう」と立ち上がった。約20店が出店する。

---

#### 5/3 千葉県・富里市商工会青年部などが企画、小中高生が南三陸に米を贈る

東日本大震災で被害を受けた宮城県南三陸町を支援しようと成田市と富里市の小中高生が100グラムずつの米を持ち寄り、計2・7トンと同町の避難所に贈った。

「100グラムの思いやり」と名付けられた活動で、1人では小さな善意でも大勢が集まれば大きな善意となり、多くの人々を支援できることの素晴らしさを子供たちに感じ取ってもらおうと富里市商工会青年部と成田青年会議所が企画した。成田市の小中高校計41校、富里市内の小中学校計11校の計約1万5000人の子供たちが参加した。

---

#### 5/3 山形県・高島町商工会などが震災後の景気低迷に活を入れるイベントを開催

高島町内のゴールデンウィーク（GW）中の各種イベントを総合し、「がんばろう東北！応援イベント たかはた春まつり2011」として開催することで、東日本大震災後の景

気低迷に活を入れようという初の試みが展開されている。毎年GW期間中、記念館やワイナリー、道の駅などが個々に観光客向けのイベントを開催してきたが、今年は震災後、町内の飲食店や旅館から客足が遠のいているため、4月中旬から町産業経済課と町商工会などが話し合い、地元活性化と東北復興を願って一連のイベントを一体的に開催しようと計画した。

---

#### 5/3 富山県・入善町商工会青年部が宮城県登米市で炊き出し

入善町商工会青年部は、5月3日に、部員・事務局の計8名で、入善町の姉妹都市である宮城県登米市において炊き出しを実施した。登米市には隣の南三陸町から震災当初8000人が避難されていた。5月3日現在も、自宅に戻られた方や親戚・知人を頼って行かれた方が多いが、800人弱の方が避難していた。

青年部員8名が2班に分かれ5月3日の昼食に入善ブラウンラーメンを振る舞った。

---

#### 5/3 群馬県・神流町商工会青年部が、チャリティバザーを開催

東日本大震災復興支援井上あずみチャリティコンサートが3日午後2時より開催された。このコンサートは当初「神流町鯉のぼり祭り」のメインイベントとして準備を進めていたがこの大震災の発生を受けて祭りの中止が決定された。

しかし、その中で被災地に向けての支援について、自分達ができることはないかという自発的な声が高まり、地元ボランティア団体「かたる会」が中心となり町役場職員や神流町観光協会、神流町商工会をはじめ町民ボランティアが集まり「がんばろう日本・鯉のぼりに希望と勇気をのせて」と題し、鯉のぼり800匹の掲揚と上記チャリティコンサートを実施した。

神流町商工会及び同青年部ではこの鯉のぼり掲揚及びコンサートの開催に対し様々な協力を行い、当日は町内外から730人の会場者を迎え復興支援のチャリティ募金並びに被災された方々に対し、支援のエールが贈られた。

併せて同青年部はコンサート会場内においてチャリティバザーを実施し、名物の「鯉焼き」「サウルスくん焼き」等の販売を行い収益金の全額を、日本赤十字社を通じ被災地に送った。

---

#### 5/2 福岡県・東峰村商工会などが東日本大震災支援義援金

小石原（焼で知られる民陶の里、東峰村小石原で3～5日、春の「民陶むら祭」が開かれる。村や商工会などをつくる同祭運営委員会が今年は東日本大震災の復興を支援しようと、各窯元などに義援金の募金箱を置くほか、売り上げの一部を寄付する。祭りでは、

小石原庁舎周辺にある約50の窯元が自慢の作品を展示し、市価より2割ほど安く手に入るとあって、期間中に10万人の人出が予想される。

---

#### 5/2 原発事故 北茨城の水産・観光業者など 経済被害甚大と東電に抗議

東京電力福島第一原子力発電所の事故で経済的な被害を受けているとして、北茨城市（キタイバラキシ）の水産業者や観光業者の団体などが、2日、東京電力茨城支店を訪れ、抗議した上で速やかな補償を求めた。

抗議したのは、北茨城市の水産業者や旅館や民宿を営業者などで作る9つの団体で、団体を代表して、北茨城市商工会の今井亨二会長ら3人が、豊田稔（トヨダミノル）市長とともに、東京電力茨城支店を訪れ1日も早い事故の収束と速やかな補償を求める要請書を手渡した。これに対し、東京電力茨城支店の荒木寛支店長は「加害者として要請書の内容を協議したうえで、しっかりと対応して復興のために力を尽くしたい」と答えた。

---

#### 5/2 広島県・広島県央商工会が福島県連に衣服等支援物資送付

広島県央商工会（有原保夫会長）では、会員衣料品店事業主から被災地支援の為に寄贈を受けた、紳士・婦人用品等衣料品、夏冬物下着類から上着類など4,000点余り、段ボールケース140ケースの物資を福島県連へ4月下旬に送付した。

福島県連は物資到着時に、2tトラック2台で職員の手により、喜多方市被災地支援物資センターへ寄贈した。

---

#### 5/1 猪苗代町商工会の有志らが震災犠牲者の慰霊祭を開催

約120年前の磐梯山の噴火で多数の犠牲者が出た猪苗代町で1日夜、浪江、双葉町などから避難する被災者がようやく咲き始めた桜の下に集い、震災犠牲者の慰霊祭が開かれる。3月11日にちなみ311本のたいまつを掲げ、メッセージを添えたらうそく2011本をとす。

主催は猪苗代町商工会の有志らで作る「HOPE猪苗代」。代表の食品販売業田原幸雄さん（53）によると、町内では住宅の全半壊や土蔵などの損壊が相次ぎ、道路も各地で亀裂が入ったりした。さらに、風評被害でホテル、旅館のキャンセルが相次いだ。避難をはねのける意味で、避難者とともに元気な猪苗代をアピールしようと「亀ヶ城桜祭り」を計画し、この中で慰霊祭を行うことにしたという。祭りでは、浪江町商工会と猪苗代町青年会議所が「なみえ焼そば」約1千食を午前11時から無料で振る舞う。